

令和7年度 第2回三郷市健康推進協議会 議事録

日時 令和7年10月6日（月）

13:15～14:00

場所 健康福祉会館5階

501・502会議室

【出席者氏名】

《委員》 草薨博昭委員、飯箸真康委員、柴田千晶委員、得津馨委員、高山美年子委員、土橋みちよ委員、滝澤隆委員、神谷功一委員、山田加世子委員（9名）

《事務局》 益子敏幸いきいき健康部長、原山千恵いきいき健康部理事、大村和男いきいき健康部参事兼健康推進課長、清水厚子健康推進課長補佐兼健康づくり係長、須永奈々子こども家庭センター主幹兼おやこ保健係長、八巻絢子健康推進課主幹兼地域保健係長、渡邊侑也健診予防係長、山口彬健康づくり係主任、浅賀達也健康づくり係主任（9名）

《傍聴人》 0名

- 1 開 会 大村いきいき健康部参事
- 2 委嘱書交付 渡辺副市長
- 3 副市長挨拶 渡辺副市長
- 4 委員紹介
- 5 会長及び副会長の選出について
会長及び副会長が選出されるまで、益子いきいき健康部長を仮議長として指名される。柴田委員より、医師会の代表に会長を、歯科医師会の代表に副会長をお願いするのはどうかと意見があり、その他の委員も賛同した。
→推薦された両名の下承を受け、会長に草薨博昭委員、副会長に飯箸真康委員が選出された。
- 6 挨拶 草薨協議会会長

7 職員紹介

8 議 事 草薨協議会会長（議事進行）

- 1) 三郷市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定案について
資料1～4について説明。

草薨協議会長より三郷市医師会の取り組みについて補足説明

平成 21 年の新型インフルエンザ流行期には三郷市医師会が運営する休日診療所の当時の体制では診療可能な患者数に限界があったため、大規模な診療所の建設計画を平成 24 年頃から徐々に進めてきた。先日、三郷市の半田地区に新しい診療所の建物が完成した。来年度当初くらいに開所予定。診療所は、新三郷駅から徒歩 4 分半の距離にあり、敷地が 600 坪、建坪が 200 坪、1 階部分が診療所になっており、完全感染独立型の診察室が三つある。2 階が防災スペースになっており、市民の避難場所として使えるスペースと避難時物資や備品等の備蓄スペースがある。また、停電時に備え太陽光パネルが設置されていて、防災と感染症対策を備えた一体型の施設になっております。感染症の流行や災害で困ったときに市民のためにできる限りのことをしようという目的で建築をさせていただいた。今後とも市民のために頑張ってまいりたい。

質問： テレビ等の報道で医療機関の病床数の減少の問題が報道されている。三郷市は、診療所を含め病院が多くあるが、計画策定において病床数等を確保できるのか。
(滝澤委員)

回答： 病院の経営が非常に厳しく、7 割近くの病院が赤字になっている。三郷市は総合病院 3 院と病院が 2 院あったが、うち 1 つの病院は令和 6 年に閉院になり、160 床なくなってしまった。三郷市北部の病院は近日閉鎖になり、診療所になる予定である。総合病院の一つが救急病床を 20 床増やした。また、もう一つの総合病院が病床を増やす計画はしていたが採算面や資金面で厳しいことから計画を中止したため、市全体で見ると減っている。また、全国的に病院経営が立ち行かない状況にあり、三郷市より非常に厳しい状態の地域は山のようにあるかと思われる。国などによる対策が必要であり、個人の努力では厳しいと考える。
(草薨会長)

回答： 埼玉県や市町村も連携しながら病床数の確保に向けての調整を定期的に実施している。今後も県と協力していきたい。

(清水健康推進課長補佐兼健康づくり係長)

質問： 新しい休日診療所では1階部分は感染症対策をとられているが、1階のフロアは陰圧設計となっているか。
(得津委員)

回答： 陰圧設計ではない。
(草薨会長)

質問： 新しい休日診療所の運営は医師会単独運営か。市や県の補助金等は受けているか。
(得津委員)

回答： 補助金は受けていない
(草薨会長)

所感： 新型コロナウイルスが流行した際は、大規模なワクチン接種を実施することで三郷市歯科医師会も三郷市医師会にお声かけいただき、三郷市薬剤師会、三郷市接骨師会ともに4師会として接種実施できたが、初動の段階で非常に混乱した。三郷市医師会に陣頭指揮を執っていただき、接種会場も流動的に調整したり、オペレーションもシステム化されていたが、経験を振り返ると、それぞれの組織がどのように連携するかが重要であったと思われる。

既存のマニュアルはあったが初動時にはそれが活用できなかったため、初動の混乱期に各組織が連携できる仕組みづくりが重要であると感じた。今後も連携して協力していきたいと思う。

(飯箸副会長)

回答： 今後についても各組織との連携が重要と思われるので4師会と共に今後も連携させていただきながら、本計画が確定した後にはマニュアル作成等を進めていきたいと考えている。

(清水健康推進課長補佐兼健康づくり係長)

所感： 新型コロナワクチン接種の初動時は4師会と行政が協議して進めていくことが重要だったと実感している。三郷市薬剤師会としては物資の調達を市から依頼されていた、アルコールやマスクが不足していて約7万回分の接種に向けて各接種会場の物資の調達に尽力した。現在は今後にも備え、市の物資の充填をしているため、当時の経験が少しずつ生かされている。

なお、三郷市薬剤師会の休日薬局も半田に開設を予定している。コロナ禍のピーク時は薬を患者にお渡しする際の対応に苦慮した。休日診療所では薬剤師が調剤したものを駐車場で待つ患者にお渡しする方法をとってい

たが、今後は非常時にドライブスルーのような形で店舗に入らず対応ができる。三郷市医師会と連携して対応していけるような薬局を建設中のため、より市民の方にスムーズに薬が渡るように検討している。

(柴田委員)

回答： 新型コロナワクチンの接種時には薬剤師会様にもワクチンの運搬や物資の調達等でご協力をいただいた。今後も平時からアルコール消毒液等の備蓄などを進めていくため、今後ともご協力いただきたい。

(清水健康推進課長補佐兼健康づくり係長)

意見： コロナ患者の家族からの話だが、面会もできなかったことから、家族が精神を病んでしまわれる、家庭崩壊につながるような家庭もあったと聞く。今後こういった事態になったとき、直接面会ができなくてもなんらかの方法で顔を合わせてどんな体調なのか把握できるような方法を政策に入れてもらいたい。

(滝澤委員)

回答： 新型コロナウイルス流行時にコロナ患者の家族が患者と面会ができなかったお話があったが、今後どの様な感染症がまた流行るかわからないが、国・県・市町村もコロナ禍の反省を踏まえてこのような計画の改定を進めている。また、デジタル化も整えるということになっている。面会等については医療機関の対応となるが、全体としては、デジタル化の流れもあるので、市も感染症対策として少しずつ準備を進めていこうと考えている。

(清水健康推進課長補佐兼健康づくり係長)

意見： 休日診療所が建設されたということで、これまでの休日診療所は我が子が小さいころに利用させていただいた。新しい休日診療所についても三郷市医師会と行政にはスムーズに連携してもらい、市民が安心して利用できるようにしてもらいたい。

(神谷委員)

次回の協議会の日程：日程は追って連絡